ORANGE JOURNAL 法政大学校友会報

よき師 よき友 つどひ結べり

第16号（通算423号）

www.hoseinet.or.jp
（法政大学校友会 HP）

Published by 一般社団法人 法政大学校友会
発行人：佐々木 郁夫（校友会会長） 編集人：坂戸 俊夫（校友会副会長）
〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学九段校舎 4 階
TEL：03-3264-1831 FAX：03-3264-4770 E-mail：jimukyoku@hoseinet.or.jp

目 次

新春対談 廣瀬克哉総長 佐々木郁夫会長…… P 1
特別対談 産学協同プロジェクト 南極越冬隊…… P 3
三島賞受賞作家 乗代雄介氏インタビュー…… P 5
リカレント教育 生涯学習への取組み…… P 8
終身会員向け「優待サービス」スタート…… P 9
法政スポーツのさらなる発展のために
朝日健太郎氏に聞く…… P11
校友会電子会員証制度が完成…… P12



迎春 新春対談

法政大学校友会会長
佐々木 郁夫

法政大学総長
廣瀬 克哉

本学のみならず、日本全体がコロナ禍に翻弄された令和3年。その終息に光が見えた新年を迎えることができました。新年にあたり、廣瀬克哉法政大学総長と佐々木郁夫一般社団法人法政大学校友会長のお二人に今年の抱負を大いに語っていただきます。

大学と校友会が連携して 学生を強力に支援

――（司会 坂戸副会長）

昨年もコロナ禍は収まらず、大学運営に大変な支障をきたしたと思いますが、その中でも新たな教育研究等の改革内容や、今年の抱負などをお聞かせいただけますでしょうか？

廣瀬総長 2020年の春から学生たちも教職員も、コロナ禍による制約に苦しめられつつ、その中でも可能なことを最大限追求するという活動を行ってきました。「自由を生き抜く実践知」という言葉が、単なるきれいごとではなく、厳しい現実に直面したときに問われることだと実感させられる機会でもありました。コロナ禍が今後どのように推移していくかを明確に見とおすことはできませんが、過去2年間に比べて、キャンパスに集って行えることは増えてくると考えています。その際に、復活した対面の活動を大切にしながら、オンラインで効果的にできることは、そちらをうまく使って、コロナ前の大学よりも幅の広い学びと、課外活動ができるような大学にしていきたいと考えています。

コロナ前には対面で活動できることが当たり前でしたから、対面だからこそできることを、ことさらに意識することなしに過ごしていました。コロナ禍の経験から、せっかく対面の活動ができる場面で、単なる情報や知識の伝達に時間を使ってしまうのは勿体ないという感覚が生まれてきました。また、オンラインの手段を上手く使うと、対面の方法よりも効果的に知識が伝達できることや、遠方の人との交流や共同作業をオンラインならば継続的に行えることが体感できました。今年は、それぞれの得意とするところを組み合わせて、コロナ前以上に濃い学びのできる大学にしていきたいと考えています。

――ありがとうございます。コロナ禍にひるむことなく着々と進んでいるのですね。

佐々木会長にお聞きします。一般社団法人法政大学校友会は飛躍の8年目に入り、去年は着実な運営を推進されましたが、その内容をお聞かせください。

佐々木会長 20年度下期から着手したデジタル化推進事業の一環で、他大学の校友会に先駆けて、校友会アプリのリリースをおこないました。このアプリは画期的で、アプリ上で電子会員証を表示させることができる仕組みとなっています。これにより、カードを持ち歩かなくても常に持っているスマートフォンからいつでもどこでも会員証を表示することができ、各種サービスが受けられます。さらに、校友会アプリでは、イベント等の様々な情報を入手できることに加え、各種手続きをおこなうことができ、すべてをスマートフォンで完結できる仕組みとなっています。

他大学は、これから追随することに違いないでしょう。校友会のデジタル化推進事業は目を見張るものがあります。

デジタル化施策は、電子会員証の実装に加え、校友会ホームページの全面リニューアル、ウェブ上で各種手続きができる仕組みの構築（申請から決済まで）といった3つの柱で構成されました。これらがすべて完成を迎えた今、ウェブ上で「すべての世代が繋がるオール法政ネットワーク」構築の基盤が整備されたといえます。

また、経済の低迷で各企業とも自前の福利厚生事業を縮小している中で、それらを補う「校友会員向けの優待サービスの提供」を開始しました。宿泊、育児、介護、グルメ、レジャー、アミューズメント、自己啓発など、全国各地の様々な業態の各種サービスを優待価格・割引料金で利用することができます。利用回数などの制限を気にすることなく、何度でも利用いただけますし、会員と同行した方も同様のサービスを受けることができ、家族や知り合いの方と利用することも可能となっています。この優待サービスの提供は、校友会員になる大きなメリットとなると確信しており、今後も校友会員となるメリットを増やしてゆこうと考えています。

企業の福利厚生は、退職とともに利用できなくなりますが、このサービスは校友会員である限りずっと利用できます。

――令和4年度の大学の事業目標をお聞かせいただけますか？

廣瀬総長 令和4年度は、第二期中期経営計画の初年度となります。計画が最終的に確定するのはもう少し先の3月ごろとなりますが、策定作業が詰めの段階に入っているところです。次の次の中期計画の最終年度が終わるのは2030年3月、つまり長期ビジョンHOSEI2030の目標年次を迎えることになります。2016年に策定した時点でHOSEI2030は文字通り長期ビジョンでしたが、第二期中期経営計画は、それが完了する時点で、HOSEI2030を中期計画で実現できる段階まで到達していることが求められています。その初年度にあたる令和4年度は、大学3キャンパス3付属校あわせて6校地のアイデンティティを強化しながら、今日の期待に対応できる将来に向けてのキャンパスのマスタープランを固めていく年にしたいと考えています。

また、すでに令和3年度にまず基礎編から開始されている、全学部の学生に向けた数理・データサイエンス・AIプログラムを応用レベルに発展させながら、文理を問わず法政で学ぶ学生には、それぞれの専門に加えてこれらの素養を身に付けていける機会を提供していきます。今後の社会で活躍していくうえで、これらの素養は不可欠なものだと考えているからです。総合大学とはいえ、特に理系キャンパスが文系とは離れていることから、文字通りの文理融合が難しい面もあったのですが、コロナ禍で活用し始めたオンラインという方法をうまく使えば、キャンパスを超えて総合大学ならではの学びを提供していけると思います。自分の専門を深く学ぶとともに、社会にその成果を応用していける「実践知」を身につけているのが法政の卒業生だ、と評価いただけるような教育を展開して行きたいと思っています。

――校友会には校友会憲章「持続可能な社会を実現するために価値を創造する」がありますが、その目指すところについてお話しください。

佐々木会長 年度計画実行のための各部会からの提案内容を踏まえて、施策検討委員会を立ち上げます。一般社団法人設立後7年を経過して、正会員数5万1千名を超え、パートナー組織（会員40名以上の組織）81団体と、大規模かつ重厚な法政大学の支援組織となりました。

設立後10年を展望すると、年度同期会員は、毎年6千名超を迎え入れ、10年間で6万名を優に超える会員数となっています。現行の既卒会員に比べ、10倍近くの人数となり、青年層のボリュームが増大し、正会員の年齢構成は大きく変化します。

一方、現行施策では既卒会員の新規加入は伸び悩み、新たな会員増強策が必要となっています。以前から課題であった女性層会員の取込みも急務です。

そういった環境変化の中で、今後も当校友会が持続可能な組織運営を実践するためには、幅広い年齢層に対して、世代層別、参加目的別の活動を強化していくことが必要と考えています。既存の法政オレンジコミュニティ（ＨＯＣ）、法政スポーツコミュニティ（ＨＳＣ）などコミュニティ活動が有効に機能しており、新規コミュニティの創設も考えられます。また、パートナー組織と連携での施策運営も検討する必要があります。

そのため、多岐にわたる課題を明確にし、各部会が連携できるように施策検討委員会の立ち上げの協議を開始しました。計画は緒に就いた段階ですが、成果は徐々に表れてくるものと思われます。



――昨年の東京オリンピックでは、本学関係者が金メダル獲得など大いに活躍されました。卒業生は、集まりがあると法政スポーツが話題の中心となり盛り上がります。スポーツが大学に活気をもたらすと、今では青山学院大学や立教大学も力を入れています。法政スポーツの支援体制はどのようになっていますでしょうか？

廣瀬総長　昨年の東京オリンピック、パラリンピックでは、本学出身の見延和靖さんがキャプテンをつとめられたフェンシング団体エペチームや、稲葉監督率いる野球の金メダル獲得、現役学生としての初のパラリンピアンが誕生するなど、本学出身者や学生の活躍に胸を躍らせました。また、組織委員会等で運営の一翼を担われた卒業生もいらっしゃいます。ボランティアとして大会を支えられた方も大勢いらっしゃることと思います。また、学生スポーツとしては、サッカー部が全日本大学サッカートーナメントで優勝し、本学卒業生の菅義偉首相から総理大臣杯を受けることができたことも心に残っています。多数の学部を擁し、離れた場所に複数のキャンパスをもつ法政大学で、学生や教職員、そして卒業生が大学としての一体性を自然に感じることができるのがスポーツだと思います。

スポーツを科学し、指導者を育成したり、人々の健康に結びつけるための教育と研究を行うスポーツ健康学部をもつ大学として、科学の裏付けをもったトレーニング法や指導法を実践していくことによって、体育会の競技成績を上げることにつとめると同時に、それを蓄積、伝達し、有力な次世代の指導者を育成していきたいと考えています。

――コロナ禍の影響で、首都圏の大学の受験者が伸び悩むとの予想ですが、本学も受験者数の推移はどう見ていますか？

廣瀬総長　まず、２０２２年度入試は本学に限らず全国の受験生総数が減る見込みです。減り方は首都圏では相対的に少なく、地方で多いことと、地方から東京に行くことは感染症のリスクという点でも警戒心がまだ強いと聞いていますので、首都圏からの受験者の比率が増えることは避けがたいだろうと考えています。そのため、２月に行う一般入試の受験者総数は、若干減少していくことを見込んでいます。しかし、法政に入学すれば、全国から、また世界各国から多様な学生が集ってきていて、高校時代までには出会えなかったような友人にも出会える。そんな大学のあり方は維持していきたいので、一般入試以外の多様な受験機会を通して、地方からの進学者や、意欲のある留学生を積極的に受け入れていきたいと考えています。

他方で、受験生にとっては、以前に比べて競争相手が減ることを意味しています。合格し易くなったから志望するというのではなく、自分にとっての学びのチャンスを最大限追求するために、思い切って法政にチャレンジしようという受験生が来てくれることは大歓迎です。また、お子様を東京の大学に送り出すことの経済的なハードルを少しでも下げるべく、校友のみなさまのご協力も得ながら、地方出身の学生に対する奨学金を用意していますので、全国から意欲ある受験生が集まってくれることを期待しています。

――今年、校友会が大学と連携して学生たちの支援する事業はどのようなことを考えられていますでしょうか？

佐々木会長　校友会における大学・学生への財政面での支援は重要な事業の一つです。奨学金をはじめとした寄付については、２０２１年９月末で累計約１億８百万円になっています。寄付金委員会主導のもと、既存の寄付活動にも協力していますし、新規の寄付活動にも協力しています。そのほか、子会社エイチ・ユーと連携した収益事業の継続やキャリアセンターからの要請に基づく就職支援活動の拡大を計画しています。

――令和４年は、止まった時計の針を進めなければなりませんが、廣瀬総長と佐々木会長のリーダーシップに大いに期待しております。

（司会　坂戸俊夫副会長）

一般社団法人　法政大学校友会　寄付実績

	寄付名	寄付額	年度
1	法政大学SGU募金	30,000,000	2014
2	広報誌「HOSEI」広告	2,390,000	2015
		1,000,000	2016
		1,000,000	2017
		540,000	2018
		1,000,000	2019
		1,000,000	2020
3	新型コロナウイルス緊急対策奨学基金	30,000,000	2020
4	校友会奨学金	10,000,000	2016
		1,370,000	2017
		1,125,000	2018
		1,040,000	2019
		1,730,000	2020
5	箱根駅伝応援募金	2,850,000	2018
		2,860,000	2019
		2,760,000	2020
		1,763,522	2021
6	スポーツ関連小口募金	194,879	2015
7	法政ミュージアム開設準備募金	10,000,000	2019
8	（市ヶ谷校舎）外構植栽整備募金	4,050,000	2020
9	地方共創プログラム募金	1,200,000	2021
	寄付総額	107,873,401	

2021年9月末現在

2021年度予算について・2020年度決算について

2021年度予算（正味財産増減計算ベース）

2021年4月1日から2022年3月31日まで　（単位円）

科　目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
（１）経常収益			
受取会費	195,000,000	222,315,000	△27,315,000
新卒終身会費	180,000,000	218,280,000	△38,280,000
既卒終身会費	15,000,000	4,035,000	10,965,000
事業収益			
事業収益計	29,000,000	3,505,854	25,494,146
受取寄付金	100,000	0	100,000
雑収益他	1,000,000	1,283,169	△283,169
経常収益計	225,100,000	227,104,023	△2,004,023
（２）経常費用			
事業費			0
事業費計	31,500,000	3,583,307	27,916,693
管理費			0
管理費計	74,596,000	88,211,715	△13,615,715
経常費用計	106,096,000	91,795,022	14,300,978
当期経常増減額	119,004,000	135,309,001	△16,305,001
当期一般正味財産増減額	119,004,000	135,309,001	△16,305,001

2020年度正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで　（単位円）

科　目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
（1）経常収益			
受取会費	222,315,000	192,630,000	29,685,000
新卒終身会費	218,280,000	185,010,000	33,270,000
既卒終身会費	4,035,000	7,620,000	△3,585,000
事業収益	3,505,854	30,210,015	△26,704,161
受取寄付金	0	0	0
雑収益	1,283,169	1,945,765	△662,596
経常収益計	227,104,023	224,785,780	2,318,243
(2)経常費用			
事業費	3,583,307	31,503,299	△27,919,992
管理費	88,211,715	78,128,581	10,083,134
経常費用計	91,795,022	109,631,880	△17,836,858
当期経常増減額	135,309,001	115,153,900	20,155,101
当期一般正味財産増減額	135,309,001	115,153,900	20,155,101
一般正味財産期首残高	881,038,993	765,885,093	115,153,900
一般正味財産期末残高	1,016,347,994	881,038,993	135,309,001
指定正味財産増減	0	0	0
正味財産期末残高	1,016,347,994	881,038,993	135,309,001

2020年度　貸借対照表

2021年3月31日現在　（単位円）

科　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ資産の部			
流動資産合計	379,095,025	404,301,356	△25,206,331
特定資産合計	881,740,500	729,858,500	151,882,000
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	881,740,500	729,858,500	151,882,000
資産合計	1,260,835,525	1,134,159,856	126,675,669
Ⅱ負債の部			
流動負債合計	244,487,531	253,120,863	△8,633,332
負債合計	244,487,531	253,120,863	△8,633,332
Ⅲ正味財産の部	1,016,347,994	881,038,993	135,309,001
負債及び正味財産合計	1,260,835,525	1,134,159,856	126,675,669



竹中 宣雄（たけなか・のぶお）
1948年和歌山県出身。法政大学社会学部卒業。1972年ミサワホーム入社。2008年より代表取締役社長執行役員に就任、2017年からは取締役会長。住宅生産振興財団理事長、高齢者住宅協議会長などを務める。2019年より校友会参与に就任し、2020年から校友会副会長。昨年8月には著書「体当たり住宅経営」を上梓。

澤柿 教伸（さわがき・たかのぶ）
1966年富山県出身。北海道大学大学院環境科学研究科修了。博士（環境科学）。専門は氷河地質学、自然地理学、第四紀学。北海道大学低温科学研究所研究員、同大学院地球環境科学研究科助手、助教を経て、2015年より法政大学社会学部准教授/国立極地研究所客員准教授。第63次日本南極地域観測隊副隊長兼越冬隊長として2021年11月に南極に出発。

私立大学教授として初めて、南極越冬隊隊長に選任

南極は最低気温マイナス45℃ 風速60mの厳しい環境

竹中副会長　私立大学の教員として初めて南極越冬隊の隊長に選ばれたということで、法政大学OBとして非常に光栄に思います。澤柿先生は過去にも南極隊員として参加されたと聞いていますが、これまでの南極との関わりについて教えてください。

澤柿准教授　実は今回で南極に行くのは5回目になります。日本南極地域観測隊では、過去34次越冬隊、47次越冬隊、53次夏隊と参加したほか、スペイン隊にも1度参加させてもらいました。過去4回は一研究者として参加していたため、自分の研究に没頭できましたが、今回は立場が変わり、隊長として参加させていただくので、違った意味での緊張感やプレッシャーを感じています。

竹中副会長　34次越冬隊というとおよそ30年前になりますね。ミサワホームでは1968年から南極昭和基地の多くの建物を受注させていただいていますが、その中でもシンボルである管理棟が完成した直後ですね。南極での生活や建物についてはいかがでしたか。



澤柿准教授　南極の建物も私が最初に行った時と比べると大きく変化したと思います。現在はまた一段と快適な生活を送れるようになり、外がマイナス何十℃という気温でも室内は半そでで過ごせるほどです。一方で、南極観測隊は限られた人数しか参加することが出来ず、建築や医療、料理のプロ等、研究を下支えしてくださるスタッフは各1名程度しかいません。ミサワホームさんから派遣された隊員の指導を得ながら我々も参加し、建物をみんなで完成させました。

竹中副会長　国内の工場であらかじめパネル化しているため、研究者である先生などの建築のプロではない方々でも建築できるのは、工業化住宅の強みだと思います。気温マイナス45℃、最大風速60mのブリザードと、地球上で最も過酷な環境である南極で建築する建物は、隊員の安全を確保するために断熱はもちろん、構造的にも頑丈さなどが要求されました。

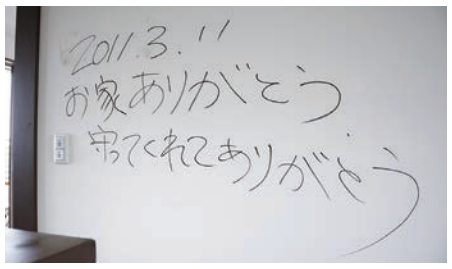


澤柿准教授　外は極寒ですので、手袋を装着しながらの組み立ては非常に大変だったことを思い出しました。また、地面も雪が大半ですので、整地をするのも一苦労でした。建物ができあがると、外が極地・南極だということを忘れてしまうほど快適なので、それはそれで心理的には気が緩み、危険かもしれません（笑）

命を守る建物の使命 南極での経験を国内技術に活かす

竹中副会長　住まわれる人々の命を守るという意味でも、南極の建物供給の経験は国内でも活かされていると思います。東日本大震災の時に、「お家ありがとう。守ってくれてありがとう。」と壁に書いてくださったご家族がいました。このご家族は津波の被害にあわれましたが、2階に避難し命拾いされたそうです。このエピソードを聞いた時、住宅会社としての使命を再認識させられました。

澤柿准教授　最近は日本に限らず、世界中で地球温暖化等の様々な環境変化がみられ、巨大地震や台風等、自然災害も激甚化していますね。南極は「地球環境のバロメーター」と言われていることもあり、南極研究からは地球の過去・現在・未来を知ることが出来ます。実際に今回私が参加する第63次隊では、100万年前の氷を地中から掘り出す計画もあり、過去の氷には当時の空気が含まれていますので、地球の過去を知るための試料になるわけです。温暖化の影響で地球の未来がどうなるのかについて、さまざまな議論がされている昨今、南極研究に求められる役割は今まで以上に大切になってくると思います。



竹中副会長　カーボンニュートラル、SDGsなどについては、企業活動においても非常に重要な課題だと思います。住宅では、太陽光発電による創エネルギーや断熱性能を高めて冷暖房エネルギーを省エネ化することで、使うエネルギーを自分の家で創出したエネルギーですべて賄うゼロエネルギー住宅（ZEH）が普及し始めています。こういった住宅を世の中に数多く供給していく事が住宅メーカーの責務とも考えます。

澤柿准教授　実際南極の氷が解け始めている可能性が報告されるようになりました。地球温暖化については早急な対策が必要ですね。南極の融解の直接の原因は海水温度の上昇ではないかと言われています。マイナス何十℃という世界で数℃気温が上がっても直接氷は解けないわけで、海の温度が高くなったことで、海に面する氷がどんどん解けているというメカニズムなわけです。南極での発見が地球温暖化問題解決に貢献できるよう我々は日夜研究に取り組んでいます。

夢中になれるものを一つでも 見つければ、人生は楽しくなる

竹中副会長　南極での研究が地球の未来にさまざまな光を示してくれるわけですね。最後に、在学中の学生に向けて何かメッセージはございますか。

澤柿准教授　今、コロナ禍ということもあり、将来の夢を見いだせずにこの先の人生を不安に思っている学生は多いと思います。私自身は学生の頃から南極へのあこがれがあり、南極に行くにはどうしたらいいのか、ひたすら夢中に考えたりしていました。結果、縁もあり5回も南極に行く機会にめぐまれたわけですが、何か一つ、夢中になれるものが見つかると人生は非常に楽しい方向に向かっていくと思います。今、具体的にイメージがない学生も、日ごろからニュース等世の中で起きていることに広くアンテナを張り、自分の興味のあること、好きなことを探すことが大切だと思います。本を読むのも一つの手ですね。

竹中副会長　澤柿先生、ありがとうございました。ぜひお体に気を付けて、南極でのご活躍を期待しています。

【南極とミサワホーム】



ミサワホームは、1968年の「第10居住棟」以降、南極地域観測隊の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は累計36棟、延床面積約5,900㎡となります。2020年にはJAXA、極地研とともに、月面での有人拠点への応用を目指し製作した「南極移動基地ユニット」の実証実験を、南極で実施。今後は月面拠点のほか、地上における未来住宅への応用が期待されています。



校友会副会長の竹中宣雄氏が、著書「体当たり住宅経営」を出版。ミサワホームに入社し、社会人としての1歩を踏み出すところから経営トップを任されるまでの道のりに、その時々の想いやエピソードを交えて綴られている。住宅産業の醍醐味と共にカーボンニュートラルへの取組みや空き家対策、コンパクトシティの建設など、これからの住宅産業の方向性についても提言している。

出版社:創樹社　発行:2021年8月

ESSAY 校友随想
"法政おおわが母校"を卒業して幾年。各地で活躍し、その後の人生模様を寄稿願った。



株式会社加賀ライズ 代表取締役
高根 典文
'67年 経済学部 経済学科卒

ITソフトウエア開発業務一筋

兄が法政法学部を卒業して就職の年に、私は経済学部に入学しました。兄は苦学して卒業しましたが、以後私は卒業まで同室で生活し、世話になる事になります。在学中はあまり勉強しませんでした。専門は「社会政策論」ですが、資本論を読んで討論するゼミでした。当時はゼミ数が少なく、入るのに試験がありました。先生はお酒が好きで、よくご自宅でお酒をいただきました。

卒業は昭和42年で、総合電気メーカーに就職しました。配属先が情報処理部門でした。ITの最先端の仕事をする部署。ほとんどの人が、理工系出身の社員でした。その後、自分で起業して一貫してITの開発業務に従事しております。IT業界は日進月歩の世界です。日本は技術者のレベルが他国と比べて低いのが心配です。ITを有効に持続的に使用する事をお勧めします。



元長野朝日放送アナウンサー
清泉女学院短期大学非常勤講師
草田（保坂）道代
'91年 文学部卒

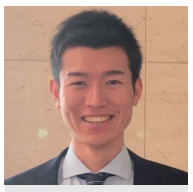
局アナを経て大学講師へ転身

今年、30年ぶりに学生になりました。仲間と共に学び合うことは刺激的で、大学時代に戻った気分です。

法政大学では外間ゼミで沖縄文学に触れ、自主マスコミ講座でアナウンスの基礎を学び、放送研究会ではラジオドラマを作るなど、周囲には常に言葉があり表現がありました。それが私の基盤になったと感じています。

地元局にアナウンサーとして就職。カメラの前で言葉を発する度に「伝える」とは何だろうと悩みました。答えが出ないまま退職し、誰を幸せにしたいのか。人生を懸けて、本当に成し遂げたいことはにか。これまでは、自分のことばかりを大切にしてきたことにも気づいた。だからこそ、今後は大切な人と共に描く夢を、自分たちらしく叶えてみたい。

敗れた夢に共通する一貫した想いを胸に、変わり続ける強さを持ち、唯一無二のパートナーと人生を切り拓いていく。



日本航空㈱株式会社
IT推進企画部
丸島 拓郎
'16年 法学部 政治学科卒

大切な人と未来を描き、拓いていく

勝負の世界で生きてきた。だが今は、勝ち負けや他人との比較で得られる成果ではなく、自分の哲学や本音を見つけ貫いていく「生き方」に興味がある。

大学時代は、ラクロス部の主将を務めたが、部員120人、自主運営、多様な価値観、これらを前に己の無力さを知った。その後日本航空に入社、学生時代の挫折を原動力に、地域や学生の懸け橋となる事業企画など、目の前の仕事に全力で生きてきたが、ふと考えさせられた。

限られた時間で何を優先

PARTNER NEWS

パートナーだより

地域・卒業生団体
学部・付属校同窓会

文学部同窓会

「九品仏浄真寺」と「豪徳寺・松陰神社」を訪ねる

文学部同窓会では、「特別企画」として春と秋に都内・近郊散策を行っています。清原孟会長（本学名誉教授）にご参加いただき、昨年は5月22日（土）に世田谷区の「九品仏（くほんぶつ）浄真寺」、11月6日（土）に同区の「豪徳寺・松陰神社」を訪れました。

浄真寺では、九品（極楽往生の際の九つの階層）に見合う九つの阿弥陀像が三体ずつ安置されている三つのお堂のうち、改修中のお堂を除く二つのお堂を拝観しました。この地は、中世、足利氏の一族の吉良氏系の奥沢城だった所で、土塁の跡なども残っていました。


九品仏浄真寺で

豪徳寺では、幕末に大老として欧米列強と困難な交渉をして開国に踏み切りながらも反対派により暗殺された井伊直弼の墓に参拝し、松陰神社では、尊王攘夷の思想家として多くの俊英を育て明治維新の先駆者となった吉田松陰の事績を偲びました。

（75年中学科卒・金森和彦）


総会の模様

経済学部同窓会

2021年度定期幹事総会、出席者を絞って開催される

2021年度定期幹事総会が、6月5日に四ツ谷駅前の主婦会館プラザエフにおいて開催されました。昨年度は、コロナ対策のために書面開催でしたが、連続の書面開催を避けつつコロナ禍であることも配慮し、人数を絞っての開催となりました。

2020年度事業報告、決算、2021年度活動方針・事業計画、予算などが議論されましたが、今後の最大の課題は、2022年の経済学部同窓会創設30年に向けての活動です。現在、オレンジの集いまたは2022年忘年パーティーでの記念行事や、同窓会員、現役経済学部生を対象とした読書感想文コンテストなどの案が出されています。また、経済学部同窓会の歩みの中で特筆すべき大事業であった「平和祈念碑」建立について、あらためて学生諸君と一緒に学び語り合う機会を、30年を機にぜひとも作りたいとの意見も出ており、今後、具体策を検討していきたいと考えています。

（広報部会長　嶋崇）

下森定先生を偲ぶ



下森 定（したもり・さだむ）
1930年4月生まれ。島根県出身。
1956年3月法政大学大学院社会科学研究科私法学専攻修士課程修了後、同年4月本学法学部助手として着任。
1960年3月に東京大学大学院社会科学研究科民刑事法専攻博士課程単位取得満期退学後、同年4月に法学部専任講師、1961年4月に同助教授、1969年4月以降は同教授として、教鞭をとる。
1995年5月～1996年6月　法政大学総長に就任。総長在任中には、私立大学連盟常務理事、大学基準協会評議員等も歴任。
司法試験第二次試験考査委員、不動産鑑定士試験委員、東京弁護士会懲戒委員会委員等も歴任し、2010年4月には瑞宝中綬章を受章。

2021年10月1日、本学元総長である下森定先生がご逝去された。若き日に本学大学院に在籍し研鑽を積まれ、その後、永きにわたり本学法学部で教鞭を取られ、大学の運営にも多大の貢献をされたことは多くの卒業生の知るところである。また、詐害行為取消権における責任説の提唱や契約責任の再構成など先生が残された輝かしい研究業績は、第二次世界大戦後のわが国、民法学の礎となっている。この点も枚挙にいとまがない。しかしながら、下森先生を知る多くの人が等しく、彼岸に旅立たれた先生のことを想うのは、その優しいお人柄と高潔な人格であったと思われる。先生の学生を見る眼差しはいつも温かで、先生の社会に対する姿勢は常に正義に根差すものであった。改めて偉大な方を失ったという愛惜の念が湧き上がってくる。

私が下森ゼミに入り、先生から民法の手解きを受けたのは1978年のことである。以来、40年以上の長きにわたり、ご指導をいただいた。司法試験に何とか合格し弁護士になれたのも、その後、本学の教員になれたのも先生のご指導の賜物である。「下森先生のお弟子さん」、多くの民法研究者が先生に対する尊敬の念を持っていて、その繋がりで私も可愛がっていただくことができた。還暦を過ぎた私が詐害行為取消権の論文で学位を取得できたのも先生のおかげである。

先生の大学院時代のご友人に、後に最高裁判事になられた遠藤光男弁護士、安田生命の社長を務められた大島雄次氏がいる。当時の大学院の309号教室で共に勉学に励んだお三方であり、「サンレイキュウ会」と称して、生涯、交遊を続けておられた。その遠藤弁護士も、そして大島氏も彼岸の地である。きっと、お三方で再び旧交を温めていることだろう。コロナウイルス感染など無い世界で、お三方でおいしいお酒を飲んでいるところを思い浮かべると、自然と胸が熱くなり、涙ぐんでしまう。弟子のひとりとして、先生のご冥福をお祈り申し上げる次第である。

先生、本当にありがとうございました。

法政大学大学院
法務研究科長・弁護士
高須順一

大島名誉顧問を偲ぶ



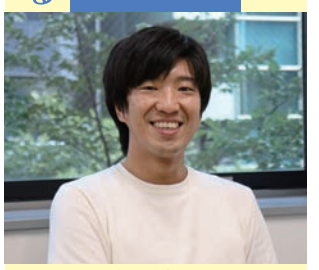
大島 雄次（おおしま・ゆうじ）
1929年生まれ　富山県出身。
1946年法政大学予科入学。
1952年法政大学法学部法律学科卒業。
1954年法政大学大学院社会科学研究科私法学専攻修士課程修了。安田生命保険相互会社入社。阪神支社長、常務取締役大阪本部長、専務取締役副社長営業総局長等を歴任。
1993年から1999年まで代表取締役社長。代表取締役会長に就任。
2001年、勲三等旭日中綬章受章。
2021年10月5日、老衰のため死去。

「法政大学校友会名誉顧問」で有った大島雄次先輩は、戦後間もない1946年縁あって法政大学予科にご入学、法学部で学んだ後大内兵衛総長の〝日本の将来を救うのは学問だ〟との言葉に導かれ、新設された社会科学研究科「私法学専攻」1期生として大学院に進まれました。

8年に渡る勉学の後、戦後復興への高い志と共に安田生命保険（相）にご入社、様々なステージで力を発揮され後に同社社長・会長には

三島賞受賞作家 乗代雄介さんに

社会学部の後輩が迫る



乗代 雄介氏
（ノリシロ ユウスケ）

1986年、北海道生まれ。法政大学社会学部メディア社会学科卒業。2015年、「十七八より」で第58回群像新人賞を受賞し、デビュー。2018年、『本物の読書家』で第40回野間文芸新人賞を受賞。2021年、『旅する練習』で第34回三島由紀夫賞を受賞。そのほかの著書に『最高の任務』『ミック・エイヴォリーのアンダーパンツ』がある。

コロナの時代に書きたいこと

21年の三島賞のご受賞おめでとうございます。受賞作の『旅する練習』はコロナ禍の状況が描かれています。コロナがちょうど広まりかけている春先が舞台になっている小説を読んだのは私自身初めてだったので、そこがリアルで新鮮でした。乗代さんはコロナとどのように向き合ってきたのかお聞きしたいです。

乗代雄介　小説に出てくる場所や日付は、その時その場所を書き残したいと思って載せたものでした。コロナについては、人と関わらない仕事なので、多少楽観的な気分でいたところはあります。それでも緊急事態宣言前と後では社会の雰囲気はかなり変わりましたが、近場の自然の中をうろうろしているうちに、変わらないものがあるということが自分の中で強くなりました。コロナも一つの「状況」ではあるわけですが、それで自然の風景が変わってしまうようなものではない。文章を書き続けていると、変わるものと変わらないものが際立ってくるので、変わらないものに目が向いていきました。

読んだ印象としては、乗代さんの今までの作品よりも全体的に明るい雰囲気だなとは感じたんですよ。その明るさはそういった心情から来てのでしょうか？

乗代　それはあると思います。「コロナだからこそ」みたいな気分があったかどうかは自分では判断できませんけど。あの頃は、みんな直接会うことができないという劇的な環境の変化にやきもきしていました。そんな状況では、実際に会って目の前に変わらずにあるものを見ながら会話することと自体が得がたいもので、だから希望に似てきます。登場人物たちに歩いている状況で話をさせたいと思ったのは、そこで変わらないものを目にすることが、明るさにつながると感じていたからかもしれません。

田中優子先生の思い出

学生時代についてのお話をお聞きしたいのですが、乗代さんは田中優子前総長のゼミに所属してらっしゃったそうですね。ゼミではどういうことを学びましたか？

乗代　残念ながら、真面目な学生ではなかったですね。ゼミの出席率はひどいものでしたが、特別扱いしていただいたようなところもあり、1年に10回ぐらい出てレポートだけでA評価をもらっていました。図書館に入り浸って本を読んでいましたね。ゼミ合宿とかも行かなかったし、本当にひどい、問答無用で単位を出さなくて済むような学生だったんですけども、個人的にお褒めのメールもいただいたり、本まで送ってくださったり。本当にめちゃくちゃなんですけど、それでもそうやって良くしていただいたことが、大学生活の中では一番大事な思い出です。それでいいんだと調子づくようなところもあったんですけど……（笑）。

田中ゼミを希望したきっかけは？

乗代　前の年に田中先生の授業をとっていました。その授業も休みがちだったんですけど、レポート課題が楽しくて、A評価もいただいて。もともと江戸時代は好きで本も読んでいたので、その見識を深められたらと思いました。

先ほど褒めてくださったとお話しされてましたが、具体的にどういうところを褒めていただいたのでしょうか？

乗代　とにかく、文章のことを。恐れ多いんですが、（伊藤）若冲とか（曾我）蕭白とかを引きつつ褒めていただくようなメールも送ってもらったことがありました。学生というより一読者として読んでいるという勿体ないお言葉で、その時すでに、プロとして物を書くことについても言及してくださいましたね。今、こういう風に仕事をさせてもらっていて、その恩を返せたという思いも少しはあります。あれからも変わらずやっていますっていうのが、先生に伝わっていれば嬉しいです。

本を選ぶときの基準

大学時代の読書体験は、現在どういう風に生かされていますか？

乗代　そうですね、高校ぐらいの頃から結構読んでいたけれど、やっぱり大学時代が一番時間があって。なんならそのために多摩キャンパスに行ったようなもんなので。一人暮らしして、時間が十分にあって、環境がいいし、図書館もあるし、みたいな。社会学部だったので、高校のときじゃ手をつけないような本もたくさん読めたし。それとは別に自分の趣味のものも読んだりして。ブックオフを回っていたのを思い出しますね。文学っていうような感じではないものも沢山読みましたし。そういう意味では大学生活はありがたかったですね。

多摩キャンパスの立地の悪さも気にならないというか、乗代さんにとってはむしろプラスというか。

乗代　そうですね。原付と歩きでうろうろしていました。でも大学の最後、一回休学したあとは、母方の実家がある千葉の松戸から通ってたんですよ。週3、往復5時間。そこでもずっと本を読んでいたっていう経験は、今思い返すとすごく大きかったですね。

沢山の本を読んでいたことが伝わってきますが、本を選ぶときの基準は気になります。どのように選んでいましたか？

乗代　最初の頃は評判とか、好きになった作家のエッセイとか文芸時評を見て褒めている本を読んでみたりとかですね。そのうち、面白いか面白くないかわからないものをわざわざ読むようになりました。「誰が何の目的で出したんだ？」みたいな本も、まあ大学には置いてないですけど、ブックオフに行くといくらでもあるので。そういうものも読んで創作に生かそうという気概で、とにかく濫読していましたね。選ぶ基準は変わってきますが、最近は当たりをつけてしまいます。自分の興味分野とか、今の仕事に関わるようなものとかが多くなって。年齢的にも、くだらないものを面白がって読むような体力があんまりなくて。大学生の時期は、良いものも悪いものも数をこなしておかないと後々まずいことになるっていう感覚があって、今を支えてくれていると思います。

「活字」と「電子」の違いとは

学生時代から創作活動をなさっていたということですが、乗代さんは結構ブログとかインターネット上でも文章を書かれていたそうですね。そういうふう風に執筆していく中で、創作の場としての「活字」と「電子」の違いはどのように考えていらっしゃいますか？

乗代　基本、ネットはとにかく好き勝手にできるというか。要は、本を出版するとなると、（編集の方と）いろんなやりとりがあったり、いろんな制約が生まれてきたり。読者を意識せざるを得なくなるっていうのがあって。それも最近はすごく楽しいんですけど。それと比べてブログをネットでやってた頃というのは本当にめちゃくちゃで、なんでも試せる練習の場として捉えていました。だから別に、繋がりとか評価には興味がなくて、自分で書いた読んでいただけるというのは、ことはたくさんある。まあ、それをあえて出したりはするんですけど、バランスは確実に変わってきました。

理想の小説家像

これまで自分の伝えたいことをちゃんと伝えようとするためにいろいろと試行錯誤していらっしゃると思うのですが、どこが一番苦労されるところですか。

乗代　さっきの比喩で言うと、いったん混ぜたものを出さなきゃいけないということですね。自分からしたら不純物みたいに意識してしまうことも入れなければ、世間に出す一つの小説として成立しないんだなっていうことが薄々わかってきたとして、じゃあそれをどう混ぜるのかというところ。混ぜたうえで溶けていれば綺麗なわけですから、自分の熱やさじ加減でその最適解を探さなければいけない。それを頑張っているところです。

乗代さんが目指す理想の小説家像があれば教えていただきたいです。

乗代　とにかく一人で、座って書き続けるということですね。サリンジャーのような態度です。人間関係にあまり興味がないのもその影響かもしれません。さっき言ったこととは矛盾してしまうんですが、誰のためのなにのためっていうことが介入しないところで書かれた、全部入って透明で綺麗な小説が理想です。



では最後に、私たち後輩に向けたメッセージがあれば、ぜひ。

乗代　もちろん授業とかこなさなきゃいけないことはあるけども、ほとんどの学生にはかなり自由な時間があるわけで、それをどう自分のために使うのかっていうのが大切だと思います。学問でも就職でもバイトでも趣味でも、目指すものは人それぞれでしょうけど、そのためにどれだけ時間をかけられたのかっていうのがものをいいます。できれば、その時間の積み重ねが可視化できるといいですね。自分だったら書いた文章とかですが、目に見えるものって強いので、他人の評価よりも積み重ねた思考や時間のほうがよっぽどえらいんだと気付いて、大丈夫だと思える時が絶対に来るんですよ。ただ、その時がいつ来るかはわからないので、とにかくやり続けるしかないのが大変です。でも、それができるのが大学生活です。面白くない本を読むこともそうですが、学生でなくなると、色々な意味で、成果につながるかわからない積み重ねというのができなくなります。でも、自分を本当に励ましたり救ったりするのは、自分にもわからないような長い時間に意味が与えられた時なんです。そんなことを多少はイメージしながら、日々の積み重ねをしてほしいと思います。

（社会学部3年　坂井実紅）

本学が一級建築士大学別合格者数第6位にランクイン！

69人の合格者で東京六大学では第2位

科学雑誌「Newton 2021・5月号」（株式会社ニュートンプレス）の「理工系大学ランキング」特集で、2020年の本学出身者の一級建築士大学別合格者数は69人で第6位にランクインしたと紹介されました。

記事によると、一級建築士国家試験では、学科試験の合格者だけが製図試験を受験することができ、製図試験に合格すると一級建築士の資格が得られます。2020年に行われた一級建築士国家試験では、学科試験の合格率が20・7％で、製図試験の合格率が34・4％でした。製図試験の合格者数は3796人で、総合合格率は10・6％でした。

東京六大学では、早稲田大学に次いで2位でした。

謹賀新年

卒業生の皆様
本年もよろしくお願いします

法政大学校友会名誉会長
法政大学 総長 廣瀬克哉

法政大学校友会 会長 佐々木郁夫
法政大学3号評議員 経営学部1970年卒

法政大学理事 法政大学校友会 副会長 小林清宣 法学部1975年卒

法政大学校友会 副会長 石塚護 法学部1968年卒

法政大学校友会 副会長 田﨑稔 経済学部1979年卒

法友体育会名誉会長 法政大学校友会 副会長 大森廣行 経営学部1970年卒

法政大学校友会 副会長 坂戸俊夫 経営学部1969年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 竹中宣雄 社会学部1972年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 三井和夫 経済学部1978年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 総務部会長 中村寿美子 法学部1981年卒

法政大学2号評議員 法政大学校友会 副会長 事業部会長 石渡洋行 法学部1983年卒

法政大学校友会監事 弁護士 山嵜正俊

法政大学校友会 法政士業の会・法政会計人会 監事 発地敏彦 発地敏彦税理士事務所 経営学部1976年卒

法政大学校友会 監事 飯塚昇 経営学部1974年卒

法政大学1号評議員 法政大学校友会 監事 松井哲也 法政大学法人統括本部長 文学部1984年卒

法政大学校友会 監事 関口広之進 法政大学後援会事務局長

法政大学 常務理事 副学長 小秋元段

法政大学 常務理事 副学長 佐野哲

法政大学 常務理事 副学長 奥山利幸 経済学部1986年卒

法政大学 常務理事 小澤雄司 社会学部1986年卒

法政大学 常務理事 副学長 ダイアナ・コー

法政大学 常務理事 和仁達郎

法政大学 常務理事 副学長 金井敦

法政大学 常務理事 副学長 岩崎晋也

法政大学校友会 名誉顧問 桑野秀光 法学部1960年卒

法政大学 常務理事 平山喜雄 法学部1987年卒

謹賀新年
法政財界人倶楽部

法政財界人倶楽部は設立30年目を迎えました。
上場企業の「役員・執行役員」会員（現在256名）に加え、「部長職・課長職」会員（現在152名）の入会も受け付け中です。
法政財界人倶楽部事務局まで申し込み連絡をください。

会長　村田 紀敏　昭和41年卒
（株）セブン&アイ・ホールディングス　元COO兼代表取締役社長
連絡先　法政財界人事務局　副会長　佐々木郁夫
TEL　03-3369-0804　担当　齋藤・道山・矢賀部

法政財界人倶楽部 会長 村田紀敏 （株）セブン&アイ・ホールディングス 元COO兼代表取締役社長

法政財界人倶楽部 副会長 山口学 （株）関電工 元取締役会長

法政財界人倶楽部 副会長 田邉光雄 信金中央金庫 相談役

法政財界人倶楽部 副会長 竹中宣雄 ミサワホーム（株） 取締役会長

法政財界人倶楽部 副会長 堰八義博 （株）北海道銀行 特別顧問

法政財界人倶楽部 副会長 瀧澤利一 （株）バルカー 代表取締役会長

法政財界人倶楽部 副会長 佐々木郁夫 （株）日本共同システム 代表取締役会長

謹賀新年
法政大学校友会　東京都校友会

会長　山本　富士哉（63 法・法）
副会長　林田　有史（65 法・法）　副会長　河原　義朗（66 経・経）
副会長　山本　俊二（70 経・経）　副会長　中山　典行（82 経・経）
常任理事　伊藤　元一（64 営・営）　常任理事　元角　昌三（70 経・経）
常任理事　白田　隆雄（71 工・建）　常任理事　大塚　英男（78 法・政）
常任理事　芝田　晃（91 経・経）
特任理事　井上　茂秋（65 法・法）
監事　島田　秀考（59 経・商）　監事　緒方　一郎（74 文・哲）

● 第7回東京法政まつり in 吉祥寺
2022年5月以降に実行する予定
多摩北部支部主管

迎春
法政大学後援会
～子どもの母校は我が母校～

〒102-0073
東京都千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎4階
TEL. 03-3264-9392
FAX. 03-3264-9367
E-mail : koenkai@hosei.ac.jp
URL : https://www.hosei-koenkai.org/

賀春
一般財団法人 法政大学経営者懇談会

これからの日本を背負うのは中小企業の経営者達です。企業経営者、学生経営者、起業家、後継者たちが会員です。
幅広い業界、校友をはじめとして有意義な活動を一緒にしませんか！ 入会をお待ちしています。

代表理事　金子正之
ご入会お問い合わせは以下事務局まで
〒102-0085　東京都千代田区六番町6-4　LH番町スクエア
Mail：hosei-keieisya@oboe.ocn.ne.jp
Web：http://hosei-keieisya.com/

（順不同）

法政大学校友会顧問
法政大学校友会北海道ブロック
理事 西岡憲廣
札幌山の手高等学校理事長・校長
法学部 1963年卒

法政大学校友会顧問・北信ブロック理事
富山県校友会
会長 松井幹夫
法学部 1964年卒

法政大学校友会
顧問 井上泰一
法学部 1969年卒

法政大学校友会
顧問 豊田信哉

法政大学理事
法政大学校友会北関東ブロック
理事 岡本眞司
経営学部 1970年卒

法政大学校友会北東北ブロック
理事 杉山忠幸
経済学部 1970年卒

法政大学校友会関越ブロック理事
埼玉県校友会
会長 大井巳喜彦
経済学部 1964年卒

法政大学校友会東京ブロック理事
東京都校友会
会長 山本富士哉
法学部 1963年卒

法政大学校友会南関東ブロック理事
神奈川県校友会
会長 小針久
鎌倉法友会 会長
経済学部 1966年卒

法政大学校友会中部ブロック理事
愛知県校友会
会長 因田義男
法学部 1968年卒

法政大学校友会関西ブロック
理事 須藤英雄
工学部 1964年卒

法政大学校友会近畿ブロック理事
滋賀県校友会
代表幹事 外池國夫
経営学部 1975年卒

法政大学校友会四国ブロック理事
愛媛県校友会
会長 渡辺昜廣
工学部 1975年卒

法政大学2号評議員
法政大学校友会北九州ブロック
理事 松尾幸靜
文学部 1971年卒

沖縄県校友会幹事長
法政大学校友会南九州ブロック
理事 鈴木洋一
経済学部 1978年卒

法政大学校友会学部同窓会ブロック理事
神奈川県校友会監事
理系同窓会相談役
岡本眞
工学部 1970年卒

法政大学校友会付属校ブロック理事
法政大学高等学校同窓会
会長 髙村嘉昭
経済学部 1970年卒

法政大学校友会職域ブロック理事
一般財団法人 法政大学経営者懇談会
代表理事 金子正之
工学部 1964年卒

法政大学校友会職域ブロック
理事 德安彰

法政大学校友会スポーツブロック理事
法友野球倶楽部
会長 山中正竹
経済学部 1970年卒

法政大学校友会スポーツブロック理事
法政大学体育会自転車競技部OB・OG会
会長 西島良男
経営学部 1970年卒

法政大学校友会スポーツブロック理事
法政大学応援団OB・OG会
会長 田中利幸
経営学部 1982年卒

法政大学校友会スポーツブロック理事
法政剛柔会
会長 髙津利明
経営学部 1969年卒

法政大学女子・国際高等学校同窓会
会長 中村美津江

法政大学2号評議員
秋田県校友会
会長 北嶋正
文学部 1971年卒

宮城県校友会
会長 尾町雅文
経済学部 1976年卒

山形県校友会
会長 髙橋順弘
経済学部 1976年卒

茨城県校友会
会長 木村眞
水戸法友会 会長
経済学部 1962年卒

栃木県校友会
会長 寺内正毅
経営学部 1963年卒

千葉県校友会
会長 河島教明
文学部 1974年卒

山梨県校友会
会長 樋泉智男
社会学部 1964年卒

福井県校友会
会長 北川頼子
法政大学2号評議員
経営学部 1975年卒

岐阜県校友会
会長 廣瀬武雄
法学部 1965年卒

三重県校友会
会長 後藤晃一
経済学部 1965年卒

奈良県校友会
会長 森章
工学部 1962年卒

大阪府校友会
会長 上野隆祥
経営学部 1973年卒

岡山県校友会
会長 西康宏
経営学部 1979年卒

広島県校友会
会長 斉藤周
工学部 1977年卒

徳島県校友会
会長 石原譲

高知県校友会
会長 加藤敏仁
法学部 1981年卒

福岡県校友会
会長 中村勇治
法学部 1993年卒

法政大学通信教育部校友会
会長 米田俊彦
法学部通信教育課程 2019年卒

文化シャッター株式会社
代表取締役会長 潮崎敏彦
経済学部 1970年卒

法政大学工体連OB会
会長 竹重高志

法政大学教職員校友会
会長 横内正雄

法政大学法友体育会
会長 酒井裕
経済学部 1974年卒

法政大学体育会自動車部OB・OG会
会長 岩瀬仁
経営学部 1971年卒

公認会計士法友会
会長 太田荘一
経済学部 1977年卒

法政会計人会
会長 髙田住男

法政大学体育会空手部拳友会
会長 鈴木秀秋

一九二一年創立
法政大学交響楽団OB会

(株)エイチ・ユー パートナー企業
共立速記印刷株式会社

謹賀新年

法政大学並びに法政大学校友会の
さらなる発展を祈念いたします。

法政大学学部同窓会

法学部同窓会
会長 金子 征史
http://hosei-hodokai.jp/

文学部同窓会
会長 清原 孟
事務局ＦＡＸ 03－3264－9840

経済学部同窓会
会長 村田 紀敏
http://www.hoseikeiyukai.jp/

理系同窓会
会長 佐藤 良一
http : //133. 25. 196. 100/

社会学部同窓会
会長 中 正美
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/

経営学部同窓会
会長 岩井 昭
http://www.houseikeieidousoukai.com/

法政大学
HOSEI University

出身学部の同窓会にも、ぜひ注目とご参加を！

（順不同）

リカレント教育・生涯学習への取組み



法政大学リカレント教育オフィス長
（イノベーション・マネジメント研究科教授）高田 朝子

「リカレント教育」って何？

リカレント教育は、いわゆる「社会人の学び直し」です。就職してからも、生涯にわたって教育と他の諸活動（仕事、余暇など）を交互に行うという概念として言われています。

近年、リカレント教育の必要性とニーズが高まりつつありますが、その背景として「人生100年時代」と「超スマート社会（Society5・0）」の到来により大きく社会が変わりつつあることがあります。

「人生100年時代」は、教育、雇用、退職後という、これまでの伝統的な3つのステージの人生モデルを多様な人生ステージに変化しつつあります。また、「超スマート社会（Society5・0）」は、学校卒業後も仕事で必要な知識や技能を修得することの重要性をますます高めています。更に、出産や子育てなど、女性のライフステージに対応した活躍支援、若者の活躍促進の観点からも、社会人の学び直しの推進が求められています。

リカレント教育推進のための組織の設置

こうした中で、法政大学は2021年4月に、リカレント教育推進のための組織として「リカレント教育オフィス」を新設し、これまでの通信教育部を「リカレント・通信教育センター」として再編しました。

本学には、大学通信教育課程として日本で最初に開設された通信教育部や、授業が平日夜間と土曜の昼間に行われる夜間大学院など、働きながら学ぶことができるプログラムや制度があり、これまでも多様な学びの機会を提供してきました。近年では、2019年度から履修証明プログラムを新たに開始しました。今回のリカレント・通信教育センターの設置により、リカレント教育を推進し、より効果的に多くの方に提供できるようにいたしました。

ウェブサイトをリニューアルしました

2021年11月にリカレント教育・生涯学習のウェブサイトをリニューアルしました。これから様々な情報を発信してゆきます。

ウェブサイトはこちらからアクセスしてご覧ください。
URL https://www.hosei.ac.jp/recurrent
QRコード

法政で再び学ぶススメ

法政大学では、今後も様々な取組みを進めてゆきます。卒業生の皆様におかれましては、リカレント教育の機会をぜひご利用ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

法政大学のリカレント教育のプログラムと制度のご紹介

本学のリカレント教育のプログラムと制度は以下のとおりです。学ぶ目的に応じて、多彩なメニューを用意しております。詳しくは法政大学のホームページでご覧ください。

このような方に
興味のある内容だけ学びたい／学位を取得したい／興味のある内容を体系的に学びたい／仕事に活かせる技能や資格を取りたい

教育プログラム
公開講座・セミナー／学部【昼夜開講】／履修証明プログラム／大学院【昼夜開講・夜間開講】／通信教育部／専門職大学院

学びの制度
科目等履修生／長期履修制度／社会人入試／研修生・委託研修生・研究生・研究員／昼夜開講・夜間開講／国家・民間資格の取得

受講後に期待できること
知識の修得に／仕事・業務の質の向上に／転職・起業・副業に／更なる学びのきっかけに／キャリアアップ・スキルアップに／昇格・昇給に

1【興味のある内容だけ学びたい方】
気軽に知識の修得 更なる学びのきっかけに！

①−1 公開講座・セミナー
多種多様なテーマから興味のあるものを選んで受講できます。1回のみ（複数回もあり）の受講で修了します。

①−2 科目等履修生【大学院・学部（通信教育部含む）】
大学院や学部の授業の中で、興味のある授業を1科目から受講することができます。評価を受け修得した単位は、その後、大学院や大学に入学した場合に修了・卒業に必要な単位として認定される場合があります。

2【興味のある内容を体系的に学びたい方】
知識の修得 仕事・業務の質の向上に！

②−1 履修証明プログラム
主として社会人向けの体系的な学習プログラムです。修了すれば法に基づく履修証明書が交付されます。本学には、現在以下の3つのプログラムがあります。※プログラムを順次充実させる予定
「健康とスポーツ」「SDGsプログラム」「ヘルスケア・マネジメント講座」

3【学位を取得したい方】
キャリアアップ・スキルアップ 昇格・昇給 新たなチャレンジに！

③−1 通信教育部
ライフスタイルにあわせた学習が可能です。卒業に必要な単位のうち3/4は通信学習（自宅）で修得できます。インターネットを利用したメディアスクーリングもあります。

③−2 大学院【昼夜・夜間開講】・学部【昼夜開講】
昼と夜のいずれかの授業を選ぶことができます（昼夜開講）。夜間開講は、平日夜間と土曜の昼のみで修了でき、平日昼間の仕事の後の時間を利用して学ぶことができます。※昼夜・夜間開講を実施している大学院・学部はウェブサイトでご確認ください。

③−3 社会人入試【大学院・学部】
社会に出て就労経験をつんだ方々を受け入れる入学試験制度です。一般的な入学試験では測ることが難しい経験や熱意など、試験では一人ひとりの資質を重視した総合的な評価を行います。

③−4 長期履修制度【大学院】
標準の修業年限（2年又は3年）を超えて長期にわたり計画的に学ぶことができる制度です（学費は標準の修業年限分のみ（例外あり））。仕事などと両立しながら学業にじっくりと取り組みたい場合に利用できます。

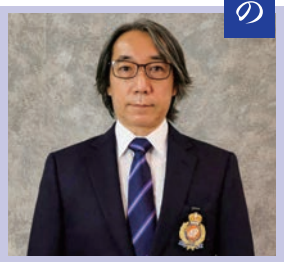
4【仕事に活かせる技能や資格を取りたい方】
キャリアアップ・スキルアップ 転職・起業・副業に！

④−1 専門職大学院
実務家の育成を主な目的とした大学院です。高度な専門知識と優れた技術により、特定の分野や業界をリードできるエキスパートを養成します。

④−2 研修生・委託研修生・研究生・研究員【大学院】
教員から研究指導を受けながら、特定分野の研究を行うことができます。

④−3 国家・民間資格の取得【大学院・学部（通信教育部含む）】
修了や卒業、又は特定科目の単位修得により、国家・民間資格（の受験資格）を取得することができます。

卒業生の言葉



経営相談有限会社
代表取締役 高取 剛充
中小企業診断士、
経営管理修士(MBA)

大学時代は体育会山岳部に所属し、卒業後は山小屋の番人、写真家、プロ・コーチとライフシフトしたのち、中小企業診断士の資格取得を目指して法政大学経営大学院に入学しました。1年という短期でMBAと国家資格が取れること、講義を受けたい教授の名があったこと、授業科目に旬なテーマが並んでいたことなどが、決め手でした。

在学中は起きてから寝るまで勉強漬けの日々。同期生と議論を戦わせながら充実した日々を過ごしました。卒業後すぐに開業できたのも、大学院でついた自信と、信頼できる仲間や良い先生のおかげです。経営支援は幅が広いですが、法政大学中小企業診断士オレンジ会に参加することで対応できています。生涯を通して働ける専門性、仕事のやりがい、仲間、そして収入。大学院で得たものは今の人生を支える基盤になっています。（広報部推薦）

カレイドスコープ

祝90周年!!《新岩城菓子舗》地域の皆さんに愛されサイクリストにも大評判

徳植 由美子 '82年文学部卒



三代目 徳植由美子さんと健司さん

JR川崎駅西口から徒歩13分ほどの「栄通り」に店舗を構える評判の和菓子店《新岩城菓子舗》は、昭和6年に創業しました。

三代目女将の徳植由美子さんは、法政女子高から文学部史学科に進み、1980年、経営学部卒）とご結婚なさいました。

二代目ご尊父の病のため、由美子さんと銀行を退職なさった健司さんが、和菓子職人になるための厳しい修行を経て、《新岩城》の暖簾を守りました。

四代目のご子息も、大学を中退して和菓子の修行を重ね、修行先で巡り合い四代目となった女将と共に、新商品の開発などに意欲的に取り組んでおられます。



三代目女将の徳植由美子さんは、法政女子高から文学部史学科に進み、1982年の卒業です。在学中は珈琲研究会に所属し、同会の先輩、健司さん（1980年、経営学部卒）とご結婚なさいました。

二代目ご尊父の病のため、由美子さんと銀行を退職なさった健司さんが、和菓子職人になるための厳しい修行を経て、《新岩城》の暖簾を守りました。

四代目のご子息も、大学を中退して和菓子の修行を重ね、修行先で巡り合い四代目となった女将と共に、新商品の開発などに意欲的に取り組んでおられます。

HP、FB、インスタ、ブログでの発信力、店頭でのPOPなどの工夫にも感心させられます。

「時の味」、「おいしいお菓子で皆を幸せにしたい」、これらのコンセプトをかたくなに貫き、季節ごとに厳選された果物や野菜の美味しさを究極まで引き出した人気商品を次々に提供しています。

親族11人が法政大学卒業生「江戸路」はじめ4店経営の凄腕経営者

山田 麻友美 '87年社会学部卒



人形町の焼き鳥・居酒屋「江戸路（えどじ）」の暖簾をくぐると「いらっしゃい！」と活きのよい声が響く。店主の山田麻友美さんは江戸っ子そのもの、気風の良さととびっきりの笑顔でお客を迎えてくれる。東京の洒落た下町の雰囲気を味わいたいなら、ぜひ訪れてほしい。

山田さんは敏腕の経営者で、「江戸路」はじめ炭火焼き鳥・もんじゃ焼き・タイ料理・スパイスカレー4店舗を経営している。

法政大学女子高校学校、社会学部を卒業し、飲食業の世界に入った。

山田さん一家はお父さんから始まり、叔父、兄弟、甥っ子まで、11人の法政一家である。

兄はテレビでもお馴染みの親子丼「玉ひで」八代目山田耕之亮さんで、都校友会中央区支部長、山田さんは幹事長で校友会支部を担ってくれている。

「中央区支部の窓口として会員を募集してます！また全国の同窓生の皆様と親睦を深め合い、『法政おお我が母校』と盛り上がりたいですね！」



校友会HP オレンジマップ 掲載店

終身会員向け優待サービス がスタートします

2022年1月から、校友会の終身会員向け「優待サービス」がスタートします。これは、国内外20万以上の施設やサービスを優待・割引価格で利用できる制度です。終身会員の皆様にとって大注目のこの企画、今回は企画の導入に携わった青年オレンジ部会長の半田朋之さんにお話を伺いました。

優待サービスの概要

校友会の終身会員※が、国内外20万以上の施設やサービスを優待・割引価格で利用できる制度です。優待は校友会員ご本人だけではなく、同伴者であれば誰でも何名でも利用可能です。対象の施設の中には全国展開している施設もあれば、都道府県独自の施設もあります。すべての世代・地域の会員の方に有益に活用いただけるサービスとなっております。

※2013年度以降の卒業生は、卒業と同時に自動的に終身会員となっております。

本サービスは2022年1月からスタートします。まずは3年間の期限付きでサービスを提供いたしますので、是非その期間に多くの方にご利用いただけますと幸いです。

〈本サービスの専用ホームページ〉

導入の経緯

コロナ禍において、従来のように集合型のイベントを開催することができなくなってしまい、2020年度はオール法政新年を祝う会、全国卒業生の集い、オール法政ゴルフ大会の三大イベントはいずれも中止となりました（新年を祝う会はオンライン版を実施）。

その中で、会員の皆様に対して、新たな価値を提供する仕組みを作ることができないか、1年間考え抜き、このサービスを導入したいと思うようになりました。

優待サービスを利用できる施設は全国に多数あり、必ずご満足いただけるサービスであると確信しております。

また、未だ会員となっていない卒業生が、「このサービスを受けられるのであれば会員になろう」というきっかけにもなると思っております。毎年、年度同期会が加わることで、会員数は増加傾向にありますが、2013年度以前で会員となっていない卒業生に、一人でも多く会員になっていただき、校友会ネットワークに参加していただけると嬉しいです。



利用施設について

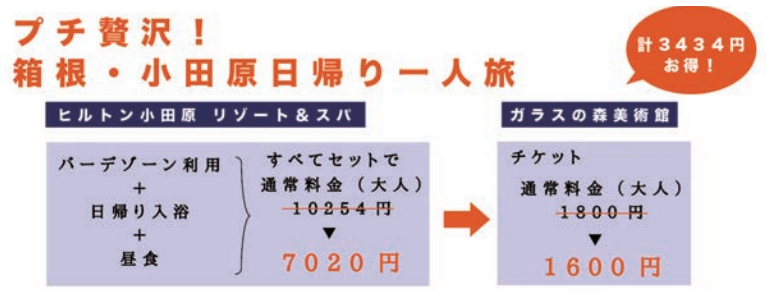
優待が受けられる施設は、飲食店だけで全国約4万店舗にものぼります。他にも、映画館、カラオケ、ガソリンスタンド、スポーツクラブ、資格スクールなど幅広いシーンやライフステージに応じてご利用いただけます。

特に、旅行やレジャー好きの方には必見です。たとえば、割引対象のホテルや旅館は全国約2万軒あり、最大で80%OFFになる場合があります。宿泊施設だけでなく、ホテルレストラン、日帰り入浴施設、テーマパーク、ゴルフ場、レンタカーも優待価格で利用することができます。

普段の生活、家族や友人との旅行やお出かけ、出張等はもちろん、校友会行事である「全国卒業生の集い」といったさまざまな機会で利用していただければと思います。

実際の活用事例

事例1 箱根・小田原一人旅



小田原方面へ日帰り一人旅をする場合、次のようなプランだと合計3434円もお得です。小田原市の根府川駅近くにあるヒルトン小田原リゾート&スパ。ここでは、バーデゾーン利用と日帰り入浴、昼食のセットが通常10254円（大人）のところ、なんと7020円で利用できるようになるのです。ヒルトン小田原リゾート&スパで日ごろの疲れを癒すリラックスタイムを過ごしたあとは、少し足を延ばして箱根にある箱根ガラスの森美術館に行くのがおすすめです。箱根ガラスの森美術館では、チケットが通常1800円（大人）のところ、200円引きの1600円になります。

事例2 家族4人でお台場1日エンジョイコース



ご家族4人でのレジャーなら、お台場で楽しむのはいかがでしょうか。お台場にある室内型遊園地、東京ジョイポリスのパスポート（入場料＋アトラクション一日乗り放題）は大人も子ども通常料金から300円割引されます。つまり、家族4人なら1200円もお得になります。東京ジョイポリスは一日の間何度でも再入場可能なので、ランチは近くにあるbillsお台場で楽しむのもおすすめです。パンケーキが人気のbillsでは、お食事とセットでドリンク無料のサービスが利用できます。ベリーやバナナ、アップル、オレンジがミックスされたヨーグルトベースのジュースであるサンライズドリンクは、コーヒーが苦手なお子様でも飲むことができます。サンライズドリンクは通常1000円のメニューなので、家族4人全員が注文すると合計4000円分も得したことになります。東京ジョイポリスでの割引額も合計すると、5200円もお得になります！

ご利用方法

優待サービスをご利用いただくには、専用のホームページにログインしていただく必要があります。校友会ホームページまたは、スマートフォンを通じて校友会の「公式アプリ」からログインができます。ログインしていただくと、優待サービスを受けることができる施設の情報も確認できますので、気軽にログインしてみてください！なお、施設によってはお電話でお申し込みいただくことも可能となっております。皆様のご利用をお待ちしております。

利用にあたっては、会員情報となるID・パスワードを入力しログインする必要があります。会員情報については、別途ご案内しておりますので、ご確認ください。

お問い合わせ先
一般社団法人
法政大学校友会事務局
TEL：03-3264-1831
E-mail：
jimukyoku@hoseinet.or.jp

名誉教授 登場

西野 春雄さん

文学部名誉教授
1962年 文学部日本文学科入学
1971年 人文科学研究科日本文学専攻博士課程単位取得後退学
文学修士
2021年 瑞宝中綬章受章



◆日本文学科へ入学

私が生まれ育った八戸市鮫町は、ウミネコが飛来する無島で知られ、海岸線を南に下れば、群青色の太平洋とハマナスが咲く砂浜が広がり、海岸には潮風が吹き抜ける松林が続きます。鮫中学・八戸高校と版画や油絵に熱中し、絵の道に進むつもりが、法政大学に進学した理由の一つは、9つ上の兄陽一が法政の経済を出ていたことです（4つ下の弟弘之も経済です）。

入学した文学部日本文学科では、西尾実・近藤忠義・小田切秀雄・廣末保・益田勝実先生の授業が文学への眼を啓かせてくれました。特に日本の語り物に興味を抱き、64年4月の三年次のゼミ選択では、中世に生まれ現代に生きる能を学ぼうと、一番若くて厳しい、小人数の表章先生のゼミを選びましたが、これがその後の人生を決定づけました。

◆浅見真州氏との出会い

卒業後も聴講していた二年先輩の観世流シテ方浅見真州（当時・真広）氏との出会いです。浅見氏は観世宗家を支えた重鎮浅見真健の五男で、父の指導を受けますが、能のあるべき姿を求め、戦後の能を革新した分家の観世寿夫氏の芸に憧れて師事し、銕仙会を拠点に活動。私も寿夫氏の能に惹かれ、銕仙会の学生会員になり、卒論「世阿弥能楽論―鬼能の考察」を書き、研究を志して大学院に進んだのです。博士課程の時、観世寿夫氏の『風姿花伝』と『至花道』の口語訳を手伝い私も『申楽談儀』の本邦初訳に挑戦、69年『日本の名著・世阿弥』に結実しました（責任編集・山崎正和、中央公論社、1969）。

◆復曲と新作ほか

70年4月、能楽研究所の研究助手に、翌年から専任所員・日文科の専任教員となり、研究所の活動、一部・二部の授業、スクーリング、後に大学院も担当。浅見先輩との交流も深まりました。84年には、研究所の事業として世阿弥時代の古演出による《葵上》を浅見氏のシテで試演。92年の創立40周年では氏の節付・型付・シテで人気曲《道成寺》の原曲《鐘巻》を復曲。

98年3月新日本古典文学大系『謡曲百番』（岩波書店）を出版し、4月所長に就任しました。2000年4月、ボアソナードタワーが竣工、能研も移転。スカイホールに仮設能舞台ができ、02年の文学部創立80周年・能研50周年では、文学部も能研の構想も漱石門下の英文学者で能楽研究に新生面を開いた野上豊一郎によって礎が築かれた歴史に鑑み、漱石の『草枕』と新体詩「鬼哭寺の一夜」に取材した新作能《草枕》を仮設舞台で上演しました（節付・型付・シテ浅見、能本作成西野）。「智に働けば角が立つ」など口語も交え旅の詩人が長良乙女の霊と出会う能です。

浅見さんは04年の外濠校舎竣工記念能に薩埵ホールで祝賀の《小鍛冶》を上演し、06年と07年の日本武道館での入学式に《高砂》《羽衣》を舞って後輩たちの門出を祝い、お祝いですからと出演料を固辞されました。

◆退職後の活動

私は09年3月、66歳で退職しましたが、復曲や新作能の仕事は続き、11年に鹿島神宮の委嘱により、正月の常陸帯の神事に取材した《常陸帯》を浅見氏と復曲。翌年から京都観世会の委嘱で、廃絶曲を現代に復活させる復曲試演の会の監修を担当。2年ごとに埋もれた名作を復曲しています。12年には、オルレアン市からジャンヌ・ダルク生誕600年を記念し新作能の制作を委嘱された喜多流の狩野琇鵬氏の依頼で《ジャンヌ・ダルク》を書き、フランス3都市で上演。劇中、観客に語りかける村人の役は修業中のオルレアンの学生が演じ、そこは仏語です。

19年には、日仏友好160年記念〈ジャポニスム2018：響き合う魂〉の公式企画で、浅見氏を団長に日経能パリ公演が開かれ（2月6日～10日）、監修と文芸を担当し同行しました。

氏の希望で観客席に張り出した屋根もある本格的な能舞台が組立てられ（60年に及ぶ海外能で初めて）、氏は祝祷の《翁》、人気曲《葵上》、寿夫氏が76年にパリで演じた世阿弥の名作《砧》を上演し、会場は深い感動に包まれ、仏国政府より芸術文化勲章・シュヴァリエが贈られました。しかし、浅見氏は21年7月、病のため急逝。享年80。哀惜の念尽きず、母校へのご尽力に感謝しております。

教え子たちはそれぞれの分野で活躍し、本学日本文学科や他大学の専任教員、附属高校の専任教員、能のシテ方・囃子方、能楽図書出版の編集者や新聞記者もいます。今、『ミネルヴァ日本評伝選・世阿弥』を執筆中ですが、完成はもう少し先になりそうです。

東京2020野球稲葉監督のもと、金メダル獲得

正式競技としては初の金メダル



稲葉篤紀さん 1995年経営学部出

野球日本代表の稲葉篤紀監督が、東京オリンピックで見事に金メダルを獲得して日本中を沸かせた。「法政野球」のOBは、アマ・プロを通じて名監督・スター選手を数多く輩出しているが、金メダル獲得は金字塔であり〝法政野球史〟に輝かしい1ページを飾った。

稲葉氏は、田淵幸一・山本浩二・山中正竹・江本孟紀らの各氏が活躍した1970年前後の時代から、その後の江川卓氏の黄金時代に続いて、リーグ戦で優勝した時代の名選手だった。明大と激しくしのぎを削り、稲葉氏は四番、一塁手を務めていた。

1991年中京大中京から法政大学（経営学部）に入学。94年ドラフト3位でヤクルトに指名されて入団した。指名は野村克也監督の肝煎りだった。

2005年日本ハムに移籍、2014現役年引退。野球解説者としても、穏やかな人柄からファンが多い。

同じ愛知県出身のイチロー氏（愛工大名電、オリックス－マリナーズ）は1歳年下だが、中学時代から同じバッティング・センターに通い、相互に認め合う仲というのは、有名なエピソード。イチロー氏から「徳の厚い人」として敬意を受けている。昨オフ、日本ハム・ファイターズGM（ゼネラル・マネジャー）に就任することになった。今年はさらなる飛躍を期待し、応援したい。

（広報委員　横川喜一）

東京五輪金メダリスト見延選手 紫綬褒章受章！

フェンシング部の星野敏先輩のビッグな贈り物



総理大臣感謝状/
文部科学大臣表彰授与式の見延選手

日刊スポーツによると「東京五輪フェンシング男子エペ団体で、同競技では日本初となる金メダルを獲得した見延和靖選手（34）が21年8月10日、所属するアミューズメント企業ネクサスの本社で報奨金1億円を贈られた。群馬県高崎市で行われた報告会に出席し、日本協会元会長でもある星野敏代表（60）からサプライズで目録を手渡された」とのことでした。

星野代表は、本学フェンシング部出身で見延選手の先輩です。14年3月から1年3カ月にわたって、日本フェンシング協会会長も歴任されています。

「09年4月、企業スポーツの相次ぐ廃部・縮小による選手の窮状に企業としての貢献すべく、スポーツ選手を社員として雇用した上で『NEXUSフェンシングチーム』を創部され、13年には文部科学大臣スポーツ功労団体を受賞しています」（NEXUS　HPより）。

11月2日、令和3年秋の褒章で見延和靖選手は、紫綬褒章を受章しました。

ハートで上げる法政重量挙部

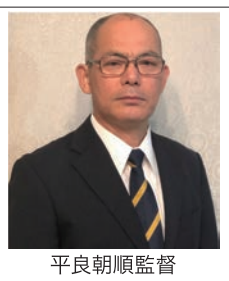
11年ぶりの優勝を飾る



最前列中央　優勝杯を手にする澤登健太郎主将
最前列左　穏やかな笑みを浮かべる平良朝順監督

法政大学重量挙部は1951年創部、昨年の2021年に創部70周年を迎えた。「全日本大学対抗戦」通称インカレでは優勝を18回も経験し、大学ウエイトリフティング界をリードする存在だ。法政重量挙部と言えば、オリンピック金メダリストの三宅義信氏選手や、銅メダリストの三宅義行氏、そして2020東京オリンピックにも出場した三宅宏実氏など、世界やアジアで活躍する選手を数多く輩出している。同部出身選手が獲得したオリンピックメダル数は9個で（金2個、銀3個、銅4個）、法政大学体育会の中で最多メダル数を誇る。市ヶ谷キャンパス内の練習場を拠点とし、部員17名で練習に励んでいる。

法政重量挙部は、まさに少数精鋭。他の強豪校と比べ半分以下の部員数だが、全員が高校時代に全国大会で優れた成績を収めており、当時からライバルとして戦っていた選手たちが全国から集まっている。その



平良朝順監督

ため選手同士で切磋琢磨し、お互いで高め合いながら成長していく環境となっている。マネージャーは在籍させず、4年間部員だけの寮生活、管理栄養士のサポートを受け、自らで食事を作るなど、日々の生活から体作りに励んでいる。〝自分のことは自分でする〟というのが、齋藤勝部長と平良朝順監督の指導方針である。平良監督は「競技だけでなく、卒業後に重宝される人材に育てたい。この4年間は社会に出るまでのウォーミングアップ期間。自分たちで考え、対応できるよう、あえて事細かに指示は出さない。」この指導が、選手たちにとって自ら行動する原動力となる。

2021年7月新潟県津南町で行われた、第49回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会においては、見事に団体優勝を果たした。今回で10度目の優勝であるが、2010年度以来11年ぶりだという。この間、後塵を拝してきた今大会2位の日本大学とは22点と大きく差を開き、さらには出場選手10人全員が表彰台に上がるという偉業を成し遂げた。

この優勝までにそれぞれの選手や部全体に変化があった。主将の澤登健太郎選手は「新体制で臨んだ2020年度のインカレでは6位と、部の歴史上最低の成績を取り、最悪なスタートとなってしまった。このままではいけないと部の雰囲気から改善を進めた。練習も活気づいて、頼り・頼られるという互いの関係性も強くなった。」と語る。まずは同期の4年生に声を掛け、日々の練習を今まで以上に大切に真剣に取り組むことから始めた。言葉ではなく競技に向き合う姿勢から後輩たちに伝わるよう工夫したためだ。

非常に繊細で奥深い競技

また取材中にも1年生が上級生に対してアドバイスを求め相談したり、上級生が解決しようと寄り添い親身に答えたりする姿があった。縦のつながりもしっかりしていることが目に見えてわかる。この光景は自分が1年生の時には想像もできなかったと、澤登主将は部員の変化に期待を持つ。選手一人ひとりが高い意識を持ち、部全体で一丸となり作り上げたチームワークこそが団体優勝を勝ち得た大きな要因だろう。

ウエイトリフティングは、一見、筋力で重いバーベルを上げるだけのシンプルで豪快な競技のように思われがちだが、実際は瞬発力や精神力が試され、選手同士の心理的な駆け引きもある、非常に繊細で奥深い競技である。挙げ方は2つあり、1つがバーベルを一気に頭上まで上げるスナッチ、もう1つがまず肩の高さまでバーベルを引き上げるクリーンと、肩から体の反動を利用し頭上まで上げるジャークという二つの動きを連動させたクリーン&ジャークだ。それぞれ3回ずつ試技を行い、最高重量の合計を競う。選手は名前をコールされてから1分以内にバーベルを床から引き上げなければならない。ただ持ち上げればよいわけではなく、上がったとしても肘が曲がっていたり、バーベルが平行でなかったりすると失敗の判定となる。ディスク（おもり）のついていない軸のバーだけでも20kg。体重の2倍以上の重さを上げるためには、パワーだけでなく、瞬発性と技術が必要となる。試技の成否は始動から10秒ほどで決してしまう。選手たちは試技成功の一瞬のために日々鍛錬を積んでいる。

選手に敬意を表す文化が

さらに魅力の一つが応援の仕方だ。選手が競技台に立つと観客席から「いけるよ！」「上がります！」などと勢いのある声援が湧き起る。大きな声援の中、選手がバーベルを持つと一瞬にして会場が静寂に包まれる。息も出来ないほどの緊張感である。そして試技が終わると歓喜やねぎらいの拍手が会場中に溢れる。重量挙げという競技には、選手と観客が一体となって見守り、後押しする、選手に対する敬意を表す文化がある。その文化が部内にも表れており、市ヶ谷キャンパスの道場からは互いに掛け合う声が響き、活気に溢れていた。

さらに平良監督は、「重量挙げはハートで持ち上げる。筋力も技術も大切だが、手足を動かすのはハート。挙げるという強い気持ちが無ければバーベルは持ち上げられない。熱い気持ちと強い心を育てたい。」と語る。驚いたことに、練習場の器具は、バーベル以外のほとんどが平良監督の手作りである。普段は仕事で立体駐車場の建設をしているため、限られた空間を有効利用できるように考えることが得意なのだそうだ。既製品の練習器具では大きく場所を取ってしまうため、キャスター付きの鏡、ジャーク台、プラットフォームまでも、全てが監督の工夫の成果なのである。監督の愛情にあふれた世界に一つしかない器具に囲まれながら選手たちは声を掛け合い練習に励む。心を大切にする監督が率いるハートフルな部だと感じた。

2021年末に開催予定の全日本大学対抗戦では、現在8連覇中で優勝数を争い続けている日本大学を破り、法政にとって9年ぶりの優勝を勝ち取ることが絶対の使命である。法政重量挙部は選手や支えるすべて人々が一丸となり、熱いハートで日本一に挑む。

（スポーツニッポン新聞社内定　経済学部　佐藤萌花）



手作りの鏡でフォームの確認をする選手

体育会サッカー部 総理大臣杯 優勝

フェアプレー賞も受賞

第45回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会において、体育会サッカー部が4大会ぶり5回目となる優勝の栄冠に輝きました。

コロナ禍の中での開催とあって、会場を関西から関東に移し、決勝戦を除いては無観客での試合となりました。

法政サッカー部の躍進はめざましく、2回戦（1回戦はシード）は環太平洋大を、3回戦は日本文理大を、準決勝では筑波大を退け、2大会連続となる決勝の舞台に駒を進めました。

本大会唯一の有観客試合となった「味の素フィールド西が丘」での決勝の相手は東洋大で、新型コロナウイルス感染防止策を徹底した法政側応援席には多くのファンが集結しました。

優勢に展開していた法政でしたが、前半早々に失点してしまいます。それでも攻撃の手を緩めず、前半41分、松井蓮之がダイレクトシュートを決め、同点としました。

後半も選手交代などで圧力を強めていきます。延長戦突入かと思われたアディショナルタイム3分、ゴール右側で佐藤大樹が得たフリーキックを、自らがゴール左隅に突き刺し、劇的な逆転勝利を演出しました。

今年から全試合で競技場



体育会サッカー部提供

に掲げている『法政に関わる全ての人々を笑顔に！』の横断幕のスローガンを見事に具現化した瞬間でした。

（広報委員　大桃信義）

法政スポーツのさらなる発展のために

元バレーボール部 朝日健太郎参議院議員に聞く



■プロフィール
1975年熊本県生まれ。1998年法政大学経営学部経営学科卒業、在学中は体育会のバレーボール部で活躍する。(株)サントリーに勤務後、2002年プロビーチバレーチーム「ビーチウインズ」を結成し、2008年北京オリンピック、2012年ロンドン・オリンピックに日本代表として出場。NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長。2016年参議院議員選挙に東京選挙区から立候補して当選、2020年9月菅内閣で国土交通大臣政務官に就く。

インタビューは2021年8月3日、国土交通省大臣政務官室で、校友会副会長(元アメリカンフットボール監督)大森廣行、広報部会の勝又秀雄、元角昌三、石毛利雄によって行われた。

オリンピック出場という経験

勝又 きょうは法政大学の体育会バレーボール部で輝かしい実績を残されています朝日先生に、法政スポーツの更なる飛躍について、お知恵を拝借したいとおうかがいいたしました。

大森 現在でも法政スポーツは頑張っていて、東京2020では見延和靖選手がフェンシングのエペで日本初の金メダルを獲得しました。オリンピック以外でも、サッカーや弓道で選手権覇者となっています。しかしながら、昔は常勝だった野球、ラグビー、バレーボールが優勝から遠のいているのが現状です。全国の校友からは、「あの強かった法政スポーツはどこへ行ってしまったんだ」と、落胆の声が聞かれます。

朝日 21年はオリンピックイヤーでした。私は学生時代から日本代表に選出していただきました。日本のバレーボールは1964年東京オリンピックで「東洋の魔女」といわれた女子が優勝してから、1972年ミュンヘン・オリンピックで男子が優勝するまで隆盛を極めましたが、その一方で、世界は打倒日本を掲げてどんどん進歩していき、日本は完全に乗り遅れてしまったと思います。最近は男女ともかなり盛り返してきましたが、私たちの時代は世界にチャレンジするという気持ちが少し弱かったような気がします。

国内人気に安住していたという反省から、私はビーチバレーに挑戦しました。ゼロからのスタート、いやマイナスからのスタートでした。それまでは経済的にも恵まれたサントリーのバレーボールチームにいたのに辞めて、退路を断ってのビーチバレーのプロとして再出発ですから苦難の連続でした。しかし、それを乗り超え、北京とロンドンのオリンピックに出場し、メダルまでには手が届きませんでしたが、オリンピックで勝つということがどれほど困難な道であるかを経験できたのは幸せでした。

元角 朝日先輩のオリンピック2回連続出場を見て、高校や大学の後輩たちも「あとに続け」と勇気をもらったのではないでしょうか。とくに北京のオリンピック初出場で9位になったのはすごいことですね。

朝日 はい、後輩たちが自分のあとに続いて、母校鎮西高校が全国制覇を達成してくれました。私自身、オリンピックに参加して、近代オリンピックの祖であるクーベルタン男爵が提唱した「スポーツを通して、…平和でよりよい世界の実現に貢献する」という理念を肌で感じることができたのは貴重な財産になっています。後輩たちにも同じ経験をしてほしいと願っています。

「支える」力の強化を

大森 きょうの本題である、スポーツ法政をどうやって盛り立てていくかについてお聞かせ願いたいと思います。そもそも朝日先生が法政を選ばれたのはどうしてですか。

朝日 あのころの法政大学バレーボール部は、大学日本一だとみんな思っていました。私も高校時代にインターハイで準優勝したものの、優勝の経験がなく、一度は優勝してみたいと思って関西を飛び越えて法政に入学しました。結果的に、大学だけでなく社会人でも何度も優勝を経験させてもらいましたから、法政に入って本当によかったと思っています。

ただし、ずっとバレーをやってきて今感じるのは、自分がスポーツを続けるために家族に大きな負担をかけていたことです。大学で学問とスポーツを両立させるには、当然ながら経済的な問題が生じてくるわけで、これを親御さんたちだけに負担させるのではなく、大学や連盟、社会全体がそれぞれ点でなく面で支えていくことが重要だと思います。経済的基盤を盤石にできれば、もっと安心して若者たちが競技を続けられると思います。

大森 法政大学の体育会の監督・コーチは、ほとんどが仕事を抱え私生活を犠牲にして、手弁当で母校愛だけでやってます。部長先生もほとんど手弁当みたいなものですが、授業や私生活に親身になって指導してくださり、そういう部は競技や就職実績が良好です。しかし、法政スポーツの限界がこのへんにあるように思います。そもそも朝日先生は、現在は大局的な見地からスポーツ振興に携われる立場ですが、大学スポーツについてどう取り組まれ、今後どのような政策を考えていらっしゃいますか。

朝日 自分は現在、国会議員として大学スポーツの改革に力を入れています。「ユニバス」といわれる大学スポーツ連合はスポーツ庁が主導して設立されました。近年、スポーツの価値がビジネス的に高まり、その社会的影響は地球規模に拡大しています。スポーツの感動とメッセージは、映像を通じて言葉の壁を超えるからです。従って、スポーツは高校時代とは違い、世界の中核を担う大学



校友会アプリ・電子会員証が正式にリリース!

機能の全容をご紹介します!

2021年4月にリリースされた校友会の公式アプリは、10月にアプリの最大の特徴である「電子会員証」の開発を完了し、ついに正式リリースとなりました。今回はそんな校友会公式アプリの導入に携わった、青年オレンジ部会長の半田朋之さんにアプリについてのお話を伺いました。



アプリ導入に至った経緯

これまで校友会では、校友会の終身会員になっていただいた方にプラスチック製の会員証を郵送していました。2014年3月以降の卒業生は、卒業と同時に終身会員となる仕組みを導入しておりますが、これらの卒業生に対しても同様に会員証を郵送していました。ところが、そもそも会員証が送られてきていることを知らないという卒業生も少なくありませんでした。この状況を改善しようと導入したのがアプリによる電子会員証です。今まで持ち歩かなければならなかった会員証をアプリ上で表示できるようにすれば、より多くの方に認識いただき、さらに利用していただけると考えました。

アプリの魅力

アプリを導入する利点は電子会員証だけではありません。校友会ではホームページ上でさまざまな情報発信を行ってきましたが、スマートフォン上で最適な内容で情報発信することができるのがアプリの魅力です。ニュースが更新された際に通知が届くプッシュ通知や位置情報を利用した法政オレンジMAPなど、スマートフォンならではのタイムリーな情報収集が行えるようになりました。アプリの機能紹介を簡単にさせていただきます。

機能説明

・Pick upニュース

校友会の最新ニュース・イベント情報を定期的に配信しています。さらに、ご自身の卒業年度、出身学部、居住地などの属性に応じて、欲しい情報を選別して情報発信をしています。プッシュ通知機能を使用すれば、リアルタイムで情報を受け取ることが可能です。

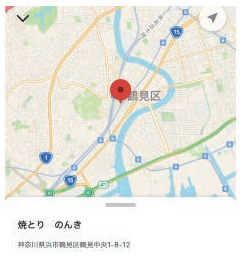
・卒業生情報

法政大学の卒業生は、様々なフィールドで活躍をしています。そういった卒業生の記事を掲載し、多数紹介しています。様々な卒業生のご活躍を、是非ご覧になってください。

・法政オレンジMAP

校友会アプリの注目コンテンツです!「法政オレンジMAP」は、卒業生が経営している全国各地の飲食店・その他サービス等の店舗を検索できるコンテンツです。店舗のジャンル(レストラン、旅館・ホテル等)やエリアごとに検索できることに加えて、位置情報を利用することで、自分の現在地近くにある店舗を探すことも可能です。該当のお店に行き、電子会員証を提示することで、卒業生ならではのサービスや特典を受けることができます。





・その他コンテンツ

その他コンテンツからは、パートナー組織の情報へのアクセス、校友会報「ORANGE JOURNAL」デジタル版の閲覧、各種SNSとの連携等、多岐にわたる情報を入手することができます。住所・連絡先の変更や校友会へのお問い合わせ等、各種手続きもこちらから行うことができます。

魅力的なコンテンツが目白押しですので、是非ご自身の興味関心に基づいた情報をご覧いただければと思います。

すべての世代、すべての地域が“つながる”オール法政ネットワークの構築

校友会で働き始めて感じたことは、「校友会というコミュニティを本気で機能させれば卒業生の皆さんにとって必ず力強いコミュニティになる」ということでした。法政大学は140年を超える歴史の中で、約50万人の卒業生を輩出してきました。それらの卒業生は、さまざまなフィールドで活躍をしています。年配の方から若い方まで、多くの人がつながるだけで一つの事業ができると言っても過言ではありません。例えば、仕事をする上での人脈や、転勤で地方に行った場合の地域交流会への参加など、校友会が卒業生それぞれのライフステージにおいて役立つものになってほしいという思いで取り組んでいるそうです。

会合を開いて情報共有する従来の校友会の形では、そこに参加した人しか情報を得ることはできませんが、アプリなら地域や年齢に関係なく情報共有が可能になります。このアプリを導入したことで、さらなる”つながり”強化を目指します。

アプリ利用方法

アプリは、App StoreやGoogle Playなどのアプリストアより「法政大学校友会」と検索していただくか、QRコードよりダウンロードすることができます。

ダウンロード完了後、アプリを開いたら「アプリ情報登録」画面が表示されます。属性に応じた情報発信をさせていただくため、可能な限り情報登録をお願いいたします。また、校友会員証を表示するには、別途手続きが必要となります。手続方法は、メールや郵送、またはホームページ等でご案内しておりますので、ご覧ください。

ダウンロードにあたってはスマートフォンが必要となります。パソコンではダウンロードできませんのでご注意ください。どなたでもダウンロード可能です。校友会員証については、終身会員の方のみがご利用可能となります。

方法① アプリストアよりダウンロード
ストアアプリで検索
法政大学校友会 検索

方法② QRコードよりダウンロード

新事務局長紹介



(一社)法政大学校友会 事務局長 小野木 修(1995年卒業)

2021年6月の人事異動で、学校法人法政大学から一般社団法人法政大学校友会に出向、7月より事務局長を拝命いたしました。校友会は、全国校友・卒業生の皆様のため、法政大学のために様々な活動に取り組んでいますが、校友会組織をさらに充実させるための一員となれたことを心よりうれしく思います。大学では、経理、入試広報、留学関係の部署を経験し、直近の6年間は多摩キャンパスの経済学部事務課に勤務していました。これまでの経験を活かして、校友会役員、パートナー組織をはじめとする、国内外の校友の皆様、そして大学との連携を大切にしながら、校友会事務局をまとめ、全国選りすぐりの校友会を目指して事務局として全力でサポートして参ります。事務局スタッフともども、よろしくお願いいたします。

2021年10月

「第28回法政大学全国卒業生の集い」栃木大会
2回延期を乗り越え、令和4年実現の運び



コロナ禍で延期されていた栃木県大会を、令和4年10月21日(金)～23日(日)で開催いたします。

21日は、ゴルフを那須ゴルフ倶楽部で開催。22日は、鬼怒川温泉で世界の発展途上国の子供達の救済をテーマにした記念講演。日光東照宮流鏑馬演武の特別公演、日光和楽踊り、奈月れいコンサート、ジャズコンサートなどの多彩なイベントを予定しています。23日はエクスカーションで、日光東照宮の特別祈祷、世界遺産二社一寺、田母沢御用邸など日本を代表する日光見学でお楽しみ頂きます。

皆様のご参加を心からお待ちいたします。

(実行委員会会長 寺内正毅)

〈秋の叙勲・褒章受章者〉

瑞宝重光章
松田 隆利氏 法政大学教授 元総務省総務事務次官

瑞宝中綬章
西野 春雄氏 法政大学名誉教授 65年文学部卒

旭日小綬章
近藤 宏樹氏 前島根県安来市長 67年法・政卒
岩切 秀雄氏 前鹿児島県薩摩川内市長 67年法・法卒

瑞宝双光章
小久保 隆氏 保護司 68年工・経営工学卒

紫綬褒章
見延 和靖氏 東京オリンピック金メダリスト(フェンシング男子エペ団体) 11年法学部卒

〈市長〉

○石川県加賀市長 宮元 陸氏(みやもと・りく) 78年法・政卒 21年10月30日～ 3期目
○島根県浜田市長 久保田 章市氏(くぼた・しょういち) 03年大学院修士課程修了 元法政大学大学院教授 21年10月～ 3期目
○埼玉県越谷市長 福田 晃氏(ふくだ・あきら) 98年法・法卒 21年11月～ 1期目

〈訃報〉

○中元 辰司氏(営・営卒) 17年2月7日没 享年64歳
○斉藤 隆夫氏(経・経卒) 20年6月7日没 享年81歳
○平本 武男氏(経・経卒) 21年4月28日没 享年70歳
○内堀 敦丸氏(法・法卒) 21年6月27日没 享年85歳
○網倉 武重氏(文・日文卒) 21年7月31日没 享年81歳
○守屋 泰夫氏(文・日文卒) 21年7月31日没 享年67歳
○佐藤 征己氏(営・営卒) 21年没 享年81歳
○井上 勝氏(前奈良県校友会会長 法・法卒) 21年10月22日没 享年86歳

※ご連絡を頂いた校友会終身会員の方を記載しております。謹んでご冥福をお祈り致します。

編集後記

アフター・コロナがウィズ・コロナとなるかは不明だが、校友会での取り組みは着々とすすんでいる。ホーム・ページを見てもらうと充実振りが分かるだろう。本号でも強調したようにWEB活用の多角化、会員証の電子化はじめ多岐にわたっている。

ところで、施策の多角化は進んでもその伝達手段は限られていると言わざるを得ない。ホーム・ページに掲載されていても閲覧してもらわなければ伝わらない。こうした中でオレンジャーナルは会員の手許に届き、積極的に働きかける数少ない手段である。本誌の記事が契機になり会員は勿論のこと会員以外の卒業生にも伝わって、校友会活動がもっと知られることを大いに期待している。

(校友会副会長 坂戸俊夫)